

天一位

# 大原神社

安産、万物万業、交通安全の守護神

## 一、位置

京都府福知山市三和町大原鎮座  
電話 〇七七三一五八一四三二四  
京都府の西端、福知山市街より東南へ約二〇キロ、綾部市街より約一〇キロの地に位し、土師川の上流、川合川の清流が流れ、閑寂山紫水明の聖地

## 一、祭神

伊弉冉尊 いさなのみこと  
天照大神 あまてらすおみかみ  
月弓尊 つきよみのみこと

## 一、例祭

大祭 五月三日 神輿渡御  
中祭 節分祭 追儺式  
撰社 火之神々社鎮火祭 火難除祈願  
小祭 半夏生 根付 虫除祈願

## 一、由緒

当社は文徳天皇（人皇五十五代）仁寿二年三月二十三日（八五二）北桑田郡野々村檉原の地（現 南丹市）より遷座創建される。

一千 年祭 安政二年乙卯三月十日―十五日  
一千五十年祭 明治三十四年八月十日―十二日  
一千 百年祭 昭和三十一年四月二十三日  
千百五十年祭 平成十四年五月二日―三日 執行  
丹波誌に初め鎮主国司 大原雅樂頭、深く崇敬し本殿、拜殿、舞殿萃表、下馬札等整頓せりとある。然れども元龜天正の頃、暫く明智日向守領主となる際、戦国混乱の戦禍に遭遇。社殿及記録等悉く焼失する。爾米領主移動 数次、明暦年間旧態に復す。

九鬼氏領主として綾部に封せられてより累代崇敬特に篤く当社の維持に力を尽され尚公卿諸侯も尊崇敬仰せりて現在の宏壮なる社殿は寛政八年（一七九六）の再建にて、唐破風の龍の丸彫りは天保三年中井権次正貞の作、拜殿頭貫、兎毛通、持送りの彫刻は久須善兵衛政精中井丈五郎正忠天保八年の作である。神興庫嘉永三年、水門社嘉永五年、神樂殿安政二年、絵馬堂文久三年の再建。昭和五十九年京都府指定有形文化財の指定となる。

### 社記に存する主な公卿諸侯の参拝

安永年中 丹波園部藩主小出美濃守の代参  
寛政二年 公家 清水谷家の代参  
全 三年二月二十八日 公家北大路彈正少弼の代参安産祈禱  
全 七年七月 十五日 丹後国峯山藩主京極家の代参安産祈禱  
全 七年八月二十三日 日野大納言家の代参安産祈禱  
全 十二年十二月七日 伊豫国宇和島藩主世子夫人代参安産祈願  
嘉永二年二月二十六日 丹後国宮津藩主本庄侯夫人御供田四畝六歩寄進

### 大原神社に詣ずることを「大原志」（オバラザシ）と云う。

当社に参詣することを「大原志」といい、春祭りに参るのを（春志）、秋祭りに参るのを（秋志）と云うと古くから歳時記に出ている。養蚕の盛んであった昔、蚕の鼠害を防ぐと利益ありと、春志に境内の小石をネコと称して持帰り、蚕棚に置き鼠を防ぎ、秋志に返納する信仰がある。江戸前期俳人の松江重頼編俳書「毛吹草」の俳諧四季之詞に「おばらざし」と載っており、さらには近松門左衛門の浄瑠璃「源三位頼政」にも採り上げられており、当時すでに高名で盛んな祭礼であったことが伺える。

手の荒れし参詣人多しオバラザシ

## 大原の産屋

前に神々しい大原神社の森を眺め、人家より川を距てた閑静なる処に、敷地僅に約三坪の地に股本柱に棟木を渡したる天地根元造を模倣した土台も無い全く原始的建物であり、古事記の「戸無き八尋殿」を想わせる。出産の節は十二把の藁（閏年は十三把）を敷いて其上に敷物を敷き出入口に古鎌を魔除として釣り、産婦は七日七夜この産屋に籠り、嘗て難産した者が無く、これは神の靈驗を事実によって証明したものであると堅く信じられている。

産屋の砂を「子安砂」と云い公卿諸侯もこの砂を大原神社にて頂き安産守護とした記録があり、現代も妊婦はこの砂を授かり安産の聖地「うぶやの里」として信仰を集めている。  
昭和六十年京都府指定有形民俗文化財の指定となる。